

【スポーツ科学部 国語基礎学力型】

〔一〕

問 1	1	2	3	4
	脱 (いで)	わんぱく	てんぷ	ごうご
	5	6	7	8
	万事	猛烈	頭角	しさ
問 2	屈辱感			
問 3	2			
問 4	5			
問 5	「正味 ~ される			
問 6	3			
問 7	会読とは、			
問 8	3			

〔二〕

問 1	①		②		③	
	褒美		稽古		致命的	
	④		⑤			
	愚痴		逸話			
問 2	(ア)		(イ)		(ウ)	
	きざ (す)		せんだつ		どりょうこう	
	(エ)		(オ)			
	だいか		こ (おう)			
問 3	I	II	III	IV	V	
	3	2	4	1	5	
問 4	A	B				
	あ	お				
問 5	手配書					
問 6	<p>スポーツをする上で重要な向上心を維持するためには、「学ぶ力」の第一要素である「自分の無知、無能についての自覚」が必要である。私の陸上部の友人は、中学生の頃から毎年国体で県の代表に選ばれているが、いつも「俺より速く走る選手が沢山いる。もっと練習して、優勝するまで納得いかない」と話している。素人の私から見れば、「こんなに速く走れるのに、これ以上練習する必要があるのか」と感じられてしまうが、彼の口からは一度も自慢を聞いたことがない。彼を見ていると、「無知、無能の自覚」の重要性を思い知らされる。</p> <p>また、「学ぶ力」の第二・第三の要素である「師」に関する能力も重要だ。素質を効率的に競技に生かすには指導者が不可欠である。前述した陸上部の友人は、最初は野球部に所属していた。中学二年生までベンチ入りもできなかったが、自分の素質を生かせる競技を体育の先生に相談した結果、先生が顧問をしている陸上部を勧められ、今では毎年国体に出場する優秀な選手となっている。偶然性も伴い、彼は素質を生かせる「師」と競技に出会うことが出来たのである。このように、スポーツにおいて「学ぶ力」の各要素は必要不可欠なものである。</p> <p>(495 字)</p>					